

# 市民社会における SDGs 行動の阻害要因と 今後の促進へ向けた取組みに関する研究

～千葉県松戸市の市民団体による SDGs 普及啓発活動の事例から～

佐藤 秀樹\*

## 要 約

本研究では千葉県松戸市の市民社会を対象とし、まつど地域活躍塾つながりの会(市民団体)がSDGsの周知および学びの場を創出してSDGsの理解度の向上を図りその浸透・定着を目指して実施した活動から、市民社会におけるSDGs普及啓発のための阻害要因やSDGs行動へつなげていくために必要な取組みについて考察した。その結果、市民社会の中でSDGsの普及啓発を進めていく場合、SDGs17個の目標が分野横断的で複眼的な視座を要することからSDGsを体系的に理解することが難しいこと、SDGsを意識した実際の行動変容へつなげていくための継続的な学びの場や実際に体験できるところが少ないこと、地域でSDGsを普及啓発するためのキーパーソン・人材育成・情報発信が十分でないことや松戸市の特徴を打ち出した地域版のSDGs教材が不足していること等が市民社会のSDGs行動へつなげていないことが考えられた。今後は、市民社会の中でのローカルSDGsコミュニケーションを促進するための多様なネットワークの形成・活用やSDGs体験学習の場を創出していく必要がある。また、松戸市地方創生SDGs推進本部の取組み状況にも注視し、高校や大学等の教育機関とも連携・協働しながら松戸市におけるSDGsの活動をより具現化するための拠点や仕組みづくりが求められる。

キーワード：市民社会、ローカルSDGsコミュニケーション、SDGs体験学習の場づくり、SDGs人材育成、SDGs行動

## 1. 背景と課題

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, 以下SDGs)の達成を目指した2030年までは、あと8年程と迫ってきている。しかし、日本のSDGs17個の目標達成状況を見ると、多くの課題を残している。Sustainable Development Report 2022(Cambridge University Press)によると、2022年の日本におけるSDGsの達成度は世界19位で、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標12「つくる責任 つかう

責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」や目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の各目標の達成度は、深刻な課題を残している(図1)。

日本政府はこれまでSDGs推進本部の設置やSDGsの基本方針等を策定し、自治体、企業、教育機関、NGOや市民活動団体にSDGsの取組みの重要性を提示している。このような状況の中で、SDGsに熱心な機関・団体・組織等では、SDGsを意識した取組みを促進している。例えば、NPO法人eboardは目標4「質の高い教育をみんなに」を目指して「聴覚や発達の障害を持った子、外国につながる子など計7万人以上を主な対象に、義務教育をカバーする1,900本の映像授業

2022年11月30日受付

\* 江戸川大学 現代社会学科講師 環境教育、環境社会活動、国際協力、SDGs

目標達成 (Achievement)		課題が残っている (Challenges remain)		重要な課題が残っている (Significant challenges remain)		深刻な課題が残っている (Major challenges remain)	
4 質の高い教育をみんなに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	2 飢餓をゼロに	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	5 ジェンダー平等を実現しよう	12 つくる責任 つかう責任
16 平和と公正をすべての人に		6 安全な水とトイレを世界中に	8 働きがいも経済成長も	10 人や国の不平等をなくそう		13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう
		11 住み続けられるまちづくりを				15 陸の豊かさを守ろう	17 パートナリシップで目標を達成しよう

図1 2022年SDGsの目標達成度(日本)

出所: Sustainable Development Report 2022 (Cambridge University Press) より筆者作成

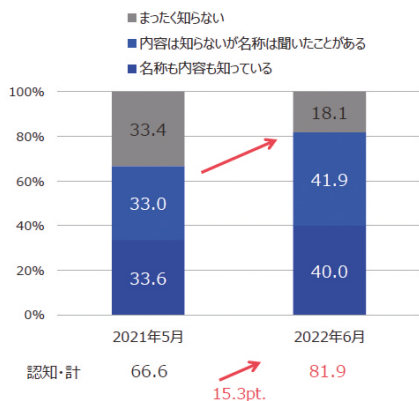


図2 SDGsの認知

出所: SDGsに関する調査(2022年6月)認知・興味関心編(クロスマーケティング社)より転載

に字幕を追加」する取組みや、愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company 部では目標1「貧困をなくそう」や目標13「気候変動に具体的な対策を」等を達成するために「フェアトレードやカーボン・オフセット、COOL CHOICE を活用した商品開発・販売を展開」している(外務省、第5回ジャパンSDGsアワード受賞団体)。

また、クロスマーケティングが実施した「SDGsに関する調査(2022年)認知・興味関心編」<sup>(1)</sup>の結果によると、一般市民におけるSDGsという言葉の認知度は2021年度から15%以上増加して

81.9%と高くなっている(図2)。SDGs17の目標の内容の周知については、目標1「貧困をなくそう」、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標2「飢餓をゼロに」が上位を占め、全体としての割合が上がる中で、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」と目標14「海の豊かさを守ろう」の順位が高くなった(図3)。その一方で、興味・関心があり、協力できそうなものに関する全体的な割合は増加しておらず、SDGsの興味・関心を促しSDGs行動を促すまでには至っていないのが現状である(図3)。

SDGsの理解を深め行動変容につなげていくために重要である教育現場の現状を見ると、初等中等教育では、SDGsが教科書の中で取入れられ、総合学習等にてSDGsをテーマとした学習が進められている。しかし、高等教育機関ではSDGsを中核に据えた学びの位置づけは明確でないことや、そのやり方は各教育機関に依存している状況である。教育系の大学では、学生がSDGsに関する予備知識の不足やSDGsを日常生活の中で実践することの難しさが指摘されている(岩間他、2021)。

以上から、市民が現代社会の抱える様々な課題に対し当事者意識を持って進めていくためには、市民が暮らしの中でSDGsを意識した実践や取組みを促進していく必要がある。本研究では、市民

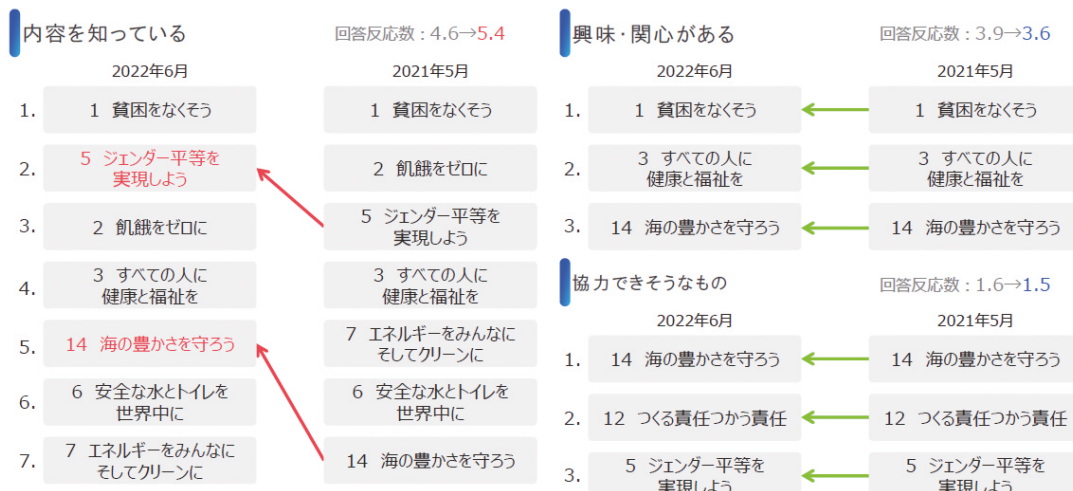


図3 SDGsの内容、興味・関心と協力可能な目標

出所：SDGsに関する調査（2022年6月）認知・興味関心編（クロスマーケティング社）より転載

社会の中でSDGsをより身近なものとするためにどのようなことが阻害要因となり、SDGsの行動変容を高めていくためにはどのような視点が必要であるのか、また、今後、市民社会の中でSDGsと私たちの暮らしとの関わりについて理解を一層促進してSDGs行動へつなげていくために必要な取組みを検討することを目的とした。

## 2. 調査の目的と方法

今回の研究では、筆者がまつど地域活躍塾つながりの会の市民団体のメンバーの一人として、2021年4月～2022年3月の1年間に渡って実施した松戸市におけるSDGsの理解度を高めるための普及啓発活動から、市民社会におけるSDGsの浸透・定着を図るための阻害要因やSDGsに対する理解を高めてSDGs行動へつなげていくために必要な取組みについて考察することを目的とした。なお、本活動は松戸市の市民活動助成制度（令和3年度募集・令和4年度実施分）の助成金を受けて実施した。

### (1) 活動内容

2021年4月～2022年3月の1年間に渡って実施した松戸市の市民社会におけるSDGsの普及啓

発活動では、下記の5つの取組みについて実施した。

#### ① SDGs ネットワークの形成

松戸市で活動するNGO/NPO、市民団体や企業等を対象とし、SDGsの勉強会および意見交換会を開催した（3回）。また、市民向けSDGs普及啓発に関する意見交換を行った。12の市民団体と1つの企業がSDGsネットワークに参加した。

#### ② オンラインスタディツアーの開催

まつど地域活躍塾つながりの会とSDGsネットワーク団体のメンバーを対象に、SDGsに先進的に取り組んでいる自治体（千葉県木更津市）とのオンラインスタディツアー（意見交換会、1回）を開催した。

#### ③ 松戸版市民向けSDGs教材開発

まつど地域活躍塾つながりの会とSDGsネットワーク団体のメンバーの協力を仰ぎながら、松戸版市民向けSDGsの教材（市民に分かりやすい実用可能な冊子本）の開発に向けた方向性を検討した（1回）。

#### ④松戸市民向け SDGs 基礎講座の開催

松戸市民へ SDGs の普及啓発を図るため、2030SDGs カードゲームの実施や松戸市で SDGs を意識して取組んでいる企業、市民団体等に講師を依頼して講義を行った。参加者はそれぞれ講座で学んだことを活かし、自分の SDGs アクションプランを作成した。

#### ⑤松戸市民向け SDGs フォーラムの開催

松戸市民に行政、企業や市民社会等における SDGs の取組みを広く知ってもらうためのフォーラムを開催した。50 名程度の市民が参加した。

### (2) 調査・分析の方法

市民社会における SDGs を促進させるための阻害要因や SDGs 行動へつなげていくために必要な取組みを把握するための調査研究の進め方と分析方法は、下記の通りである。まつど地域活躍塾つながりの会が実施した SDGs 普及啓発の実践活動による 5 つの取組みから本研究に必要な意見等を抽出することにより分析を行った (図 4)。

#### ① SDGs ネットワークの形成

SDGs ネットワークに参加した 12 の市民団体と 1 つの企業が SDGs のどの目標を意識した活動を展開しているののかに関する回答内容から分析を行った。

#### ②オンラインスタディツアーの開催

千葉県木更津市を対象としたスタディツアーでは、SDGs ネットワーク団体やまつど地域活躍塾つながりの会の参加者による意見集約により考察した。

#### ③松戸版市民向け SDGs 教材開発

松戸版市民向け SDGs 教材開発では、SDGs ネットワーク団体とまつど地域活躍塾つながりの会の参加者からだされた教材の種類、内容、対象や活用方法に関する意見集約から分析を行った。

#### ④松戸市民向け SDGs 基礎講座の開催

松戸市民向け SDGs 基礎講座では、参加者からのアンケートによる意見集約の内容から考察し

#### ●研究の目的

- ・市民社会の中でSDGsを浸透・定着させていくための阻害要因とは？
- ・市民社会の中でSDGsの行動変容を高めていくための視点・取組みとは？

#### ●調査・分析の進め方

期間: 2021年4月～2022年3月 (1年間)  
実施団体: まつど地域活躍塾つながりの会  
活動名: 松戸市民向けSDGs普及啓発促進事業(松戸市民活動助成制度)  
(1) SDGsネットワークの形成  
12の市民団体と1つの企業がSDGsのどの目標を意識した活動を展開しているののかに関する回答の内容から分析  
(2) オンラインスタディツアーの開催  
千葉県木更津市を対象としたオンラインスタディツアーの参加者からの意見集約による考察  
(3) 松戸版市民向けSDGs教材の方向性に関する意見交換  
教材の種類、内容、対象や活用方法から分析  
(4) 松戸市民向けSDGs基礎講座の開催  
参加者からのアンケートによる意見集約の内容から考察  
(5) 松戸市民向けSDGsフォーラムの開催  
参加者からのアンケートによる意見集約の内容から分析



市民社会の中でSDGsの興味・関心を促し、市民がSDGs行動に協力していくための方向性を検討

図 4 調査研究の全体像

出所: 筆者作成



た。

### 3. 結果と考察

#### ⑤松戸市民向け SDGs フォーラムの開催

松戸市民向け SDGs フォーラムでは、参加者からのアンケート結果により考察を進めた。



写真1 SDGs ネットワーク会議  
撮影：まつど地域活躍塾つながりの会

#### (1) SDGs ネットワークの形成

SDGs ネットワークの選抜方法は、まつど地域活躍塾つながりの会のメンバーが30程の団体に声掛けを行い、その中で市内13の活動団体・企業（子育て、地域猫、ゴミ拾いや農業に関わる12の市民団体、造園関連の企業1社）の参加が決まった。そして、SDGs ネットワーク団体が集まった会議を実施した（写真1）。図5は、各活動団体・企業がSDGsのどの目標を意識した活動を展開しているのかに関する回答の内容である。

これを見ると、目標11「住み続けられるまちづくりを」が最も多く、続けて目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」が多かった。この2つの目標は、市民社会との親和性があり意識の高い目標であると言える。また、目標5「ジェ

SDGs目標と活動とのつながり		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
①	岩瀬自治会			3	4	5						11	12		14	15		
②	松戸里やま応援団七喜の会						6	7				11	12	13	14	15		17
③	まつどNPO協議会			3	4	5					10	11	12					17
④	とうかつ草の根フードバンク	1	2	3														
⑤	松戸子育てさぼーとハーモニー			3	4	5		8			10	11					16	
⑥	てとてナビ	1		3	4	5		8			11						16	17
⑦	外国人の子供のための勉強会				4													
⑧	メイク松戸ビューティフル				4						11		13	14	15			17
⑨	MamaCan	1				5		8			11						16	
⑩	まつどSDGsノウエン		2									12						17
⑪	松戸地域猫スタートサポート										11							17
⑫	まつど地域活躍塾つながりの会			3		5					11	12						17
⑬	株式会社新松戸造園					5					11							

図5 SDGs ネットワーク各団体の取組みとSDGs とのつながり

出所：まつど地域活躍塾つながりの会

ンダー平等を実現しよう」, 目標 3「すべての人に健康と福祉を」, 目標 12「つくる責任 つかう責任」や目標 4「質の高い教育をみんなに」も多かった。各組織の活動内容にもよるが, 目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」, 目標 3「すべての人に健康と福祉を」や目標 12「つくる責任 つかう責任」は日本の SDGs 達成度においても課題を残している目標であり, 身近な暮らしや働き方にも関わる内容であることから, 市民社会の中で SDGs の普及啓発を促していく場合には取入れていくべき興味・関心度の高い取組みであると言える。その一方で, 目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」とのつながりについて回答した組織は少なかったことから, 市民社会での理解度は十分に及んでいないと推測される。

## (2) オンラインスタディツアーの開催

SDGs に先進的に取り組んでいる自治体スタディツアー（意見交換）の対象は, オーガニックシティをテーマとして SDGs の取組みを先駆的に進めている千葉県木更津市と行った<sup>(2)</sup>。ただ, 新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で, 現地視察はできなかった。そのため, 2021 年 8 月 3 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分にオンラインで木更津市との意見交換を行った。

参加者は 15 名（木更津市地方創生推進課 1 名, SDGs ネットワーク形成団体（6 団体・企業, 計 8 名）, まつど地域活躍塾つながりの会 6 名であった。オンラインのスタディツアーでは木更津市地方創生推進課より, 「オーガニックなまちづくりなど取組み状況」を説明してもらい, その後, 質疑応答や意見交換等を行った。特に, 本研究に関わる市民社会での SDGs 行動へつなげていくための内容として抽出した意見集約は下記の通りである<sup>(3)</sup>。

### ●市民への効果的な周知方法

- ・オーガニックフェスティバルの中で楽しいイベント（木更津の有機米, 味噌づくり）を進めることを切り口とした。そして, 市

民がオーガニックを体感してもらうことを通じて, SDGs との関わりを理解してもらうよう工夫を施した。

- ・オーガニック・アクション・チェックリストを用意して, 広報誌に掲載した。そして, 応募してもらった人にグッズをプレゼントする等, 市民の目線で周知を徹底し, 参加を促す仕掛けづくりを行った。
- ・SNS（Facebook, ツイッター, インスタグラム等）を使用し, 市民への情報発信に努めている。
- SDGs を進めていく上での市民や市民団体との協力・協働
- ・賛同者を増やしていくこと, オーガニック・アクション・パートナーズという制度をつくり, その人たちと一緒に SDGs を意識した普及啓発を試みている。本制度に登録すると, 優秀な取組みは表彰されることやロゴマークの使用権を与える等, 様々な特権がある。140 団体等が登録している。
- ・木更津市では 10～20 代の若い世代は行政自体に興味を持たず, SDGs に関する認知度が低い（市としては, SDGs は抽象的で分かりづらいと捉えている）。そのため, 今後の木更津市のまちづくりを担っていく若い世代（特に, 高校生）を対象とし, 高校生として何ができるのかを考えてもらえる取組みを重視して立ち上げて高校生会議を実施している。

### ●SDGs 普及活動を進めるに当たっての留意点と課題

- ・SDGs やオーガニックを身近なものとして伝えていくことが重要。
- ・既存の取組みを, SDGs の 17 の目標とつなげながら整理していくことがまずは重要。特に, 行政の中で SDGs を促進していくということであれば, 市役所の各部署での取組みと SDGs との紐づけや, 各部署での SDGs 案内看板の設置等, 職員および来訪する市民が SDGs を理解して賛同してくれる人を増やすことが大切である。

SDGs 普及啓発や行動を促すために重要なことは、「広報・情報発信」、「目標・テーマ・イメージ・共有化」、「組織・運営」、「行政・施策・リーダー」、「連携」や「高校生等の若い世代の巻き込み」等の内容がだされた。人・組織づくり、SDGs を具現化していくためのテーマや狙いを明確にし、広報・情報発信が重要であることが分かった。また、市民が SDGs を実践することで何かしらのインセンティブを実感できるための仕掛けが重要である。

### (3) 松戸版市民向け SDGs 教材開発

市民に分かりやすく SDGs を普及するための教材開発に向けた方向性を検討するアイデア創出および活用方法を含めた意見交換を目的とし、2021年8月28日(土)13:30~15:30に渡り、オンラインで開催した。参加者は8名(SDGs ネットワーク形成団体4名、つながりの会3名、まつど地域活躍塾5期生1名)であった。

意見交換では、2つのグループに分かれて Jamboard にアイデアを貼りながら進めた。意見交換の内容としては、教材の種類、内容、対象、活用方法等について話し合ってもらった。2つのグループの意見交換を集約した結果としては、楽しく学ぶことのできるカードやスマートフォンの

アプリを活用したもので、松戸というローカル地域の特徴を活かした具体的な SDGs 行動へつながる内容、対象は子ども、学校や若い世代とする教材が良いという結果であった(図6)。教育機関での活用を見据えて若い世代に適用可能な分かり易く学ぶことのできる教材内容が望ましいことが分かった。

### (4) 松戸市民向け SDGs 基礎講座の開催

松戸市民への SDGs に対する理解を深めるための講座を開催した。講座の概要やプログラム内容は、図7の通りである。

講座の開催日程は、2021年10月23日(土)、24日(日)および11月20日(土)、21日(日)の2日間2回に渡り、松戸市五香市民センターで実施した(写真2)。一般参加者は1回目8名、2回目3名であった<sup>(4)</sup>。なお、参加者の募集はチラシ1000枚を印刷して松戸市の市民センター等への施設に置いてもらったことや、SNSを通じて広報を行った。

講座の最後にはアンケートをとり、内容の満足度等を把握した。参加者からはカードゲームで SDGs の概要を知り、市内活動団体の取組みと SDGs との結びつきを知り、アクションプランの作成で自分がどのようにかかわっていくべきかを



図6 松戸版市民向け SDGs 教材開発の方向性に関する意見集約の結果

出所：筆者作成 (2つのグループが Jamboard で作業した内容を集約)

**SDGs 全2回 基礎講座** 松戸市民対象

2021年10月23日(土)・24日(日) 2021年11月20日(土)・21日(日) 開催

※詳しい講座内容・タイムテーブルは裏表をご覧ください。

**目的**  
SDGsの概要や松戸でのSDGsに関する具体的な内容について理解を深め、実行意欲を高め、役割分担を促すことのできるSDGsアクションを考えます。

**達成目標**  
①SDGsゲームを通してSDGsの本質を理解します。  
②松戸市にある企業および市民活動のSDGsに関わる発表から、SDGsの推進を支援し、協力の機会について理解します。  
③SDGsアクションプランの作成を通じ、身近な私たちの暮らしで実践できるSDGsの具体的な取り組みを考えます。

**開催場所**  
五香市民センター  
10月23日(土)……第一会場  
10月24日(日)……第二会場  
11月20日(土)……第三会場

**お申し込み方法**  
お申し込み方法は、お申し込みフォームよりお申し込みください。  
<https://forms.gle/AGyqhwqDFQ8xp26>

**お問い合わせ**  
お問い合せは下記メールアドレスへお問い合わせください。  
sdgs@mitsu@sigm.com つなぐりの会 佐藤 亮樹

図7 松戸市民向けSDGs基礎講座の内容  
出所：まっど地域活躍塾つなぐりの会

— SDGs基礎講座 タイムテーブル —

回数	日付	会場
第1回	第1日目 ① 10月23日(土)	五香市民センター(第一会場)
	13:30-13:50	講座開会式
	13:50-16:00	① 導入 カードゲーム「2030SDGs」
	16:00-16:55	② 企業とSDGs
第2回	第2日目 ② 10月24日(日)	五香市民センター(第一会場)
	9:30-12:00	③ 地域社会とSDGs
	12:00-13:00	昼食・休憩
	13:00-15:50	④ SDGsアクションプランづくりと発表
第3回	第1日目 ③ 11月20日(土)	五香市民センター(第二会場)
	13:30-13:50	講座開会式
	13:50-16:00	① 導入 カードゲーム「2030SDGs」
	16:00-16:55	② 企業とSDGs
第4回	第2日目 ④ 11月21日(日)	五香市民センター(第一会場)
	9:30-12:00	③ 地域社会とSDGs
	12:00-13:00	昼食・休憩
	13:00-15:50	④ SDGsアクションプランづくりと発表

**日程の相合せ**  
 (A日程) ①10月23日(土)+②10月24日(日) ③11月20日(土)+④11月21日(日)  
 (B日程) ①10月23日(土)+④11月21日(日) ※②③も同日開催の都合で相合せが難しい場合があります。  
※各会場、参加の人数に応じて会場が変更される場合があります。変更の際は、参加者へメールでお知らせいたします。



写真2. 地域社会とSDGs  
メイク松戸ビューティフルによる講義  
撮影：まっど地域活躍塾つなぐりの会

知り、有意義であったとの内容が多かった。  
また、アンケートの中で聞いた本研究に関わるSDGs行動へつなげていくために必要な取組みとして抽出した意見集約は下記の通りである。

- 今後、SDGs についてどのようなことについて知りたい、もしくは学んでみたいと思うか
- ・ 会社でのSDGsの取組み方
- ・ 教育ボランティアへの参加を考えているため、目標4「質の高い教育をみんなに」に関する内容について理解を深めたい
- ・ ボランティア団体への参加を通じて、自分とSDGsとの関わりを見つけていきたい
- ・ 自己学習を進めて当事者意識を高めていく
- ・ 松戸市役所(行政)のSDGsに関する取組み
- 今後のご自分の行動や活動にSDGsの視点をどのように取入れていくか
- ・ ひとり一人のSDGsの視点を高めていくことが大事
- ・ 町内会で役員等を通じてSDGsを広めてい



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

令和3年度松戸市市民活動助成事業

松戸市民向け **SDGs フォーラム**

参加費 **無料** 参加人数 **先着50名**

松戸市でのSDGsの現状はどうなっているのでしょうか？  
行政、企業や市民社会の事例からSDGsの取り組みを学びます。  
また、SDGsアクション・プランの作成等から、身近な暮らしの中でできる松戸版SDGsを考えます。

2022年 **2月23日 祝水** 13:00～16:30  
※12:30より受付開始

対象 松戸市のSDGsの取り組みに興味・関心のある人

開催場所 まつど市民活動サポートセンター 2階 大会議室  
〒271-0094 千葉県松戸市上栄299-1

参加申込 以下のURL、もしくはQRコード(申込フォーム)よりお申込みください。  
<https://forms.gle/pj6kYJ5d9QY21Aa6>

連絡・問い合わせ先 [sdgs matsudo@gmail.com](mailto:sdgs matsudo@gmail.com) (担当/つなぐりの会 佐藤 秀樹)

主催:まつど地域活躍塾つなぐりの会 後援:松戸市

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

〈松戸市民向けSDGsフォーラム〉タイムテーブル

[全体司会] つなぐりの会 / 江戸川大学 佐藤 秀樹

時間	プログラム	講師(敬称略)
13:00 ↓ 13:05	挨拶 ①	つなぐりの会 佐藤 秀樹
13:05 ↓ 13:10	挨拶 ②	松戸市役所
13:10 ↓ 13:20	つなぐりの会による松戸市でのSDGs普及啓発活動の取り組み	つなぐりの会 / 江戸川大学 佐藤 秀樹
13:20 ↓ 13:40	SDGsとは? (最近よく目にするSDGsの概要、そして本質について)	つなぐりの会 / 一般社団法人経営環境推進 平野 将人
13:40 ↓ 13:55	行政の取り組み 松戸市におけるSDGsの取り組み	松戸市役所
13:55 ↓ 14:15	企業での取り組み(事例) (仮)千葉銀行におけるSDGsの取り組みについて	千葉銀行
14:15 ↓ 14:35	市民社会の取り組み(事例) 岩瀬自治会の活動とSDGs	岩瀬自治会
14:35 ↓ 14:55	学校・学生の取り組み(事例) 「松戸市内の大学生によるSDGsフォーラム」の実施結果報告 (千葉県立松戸国際高等学校のSDGsの取り組みも紹介)	SDGsフォーラム 学生運営委員会
14:55 ↓ 15:05	休憩	
15:05 ↓ 16:30	● SDGsアクション・プランづくり (アクションプランづくり参加者にはSDGs缶/バッチ発配) ● 交流ブースの設置 (SDGsネットワーク団体の活動に理解を深め、交流を図る)	つなぐりの会 / 江戸川大学 佐藤 秀樹 (SDGsネットワーク団体)

コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン開催(もしくは対面とオンラインの併用)や延期・中止の場合もあります。

図8 SDGs フォーラムの概要  
出所:まつど地域活躍塾つなぐりの会

く

- ・自分の暮らすマンション内でのSDGsの普及啓発

行政、企業、自治会・町内会やボランティア等の様々なステークホルダーのSDGsの活動を意識し、自分が取組んでいく中で当事者意識を高めていきたいという内容が多かった。SDGs行動を一層促していくためには、身近な視点やステークホルダーによるSDGsの取組みの情報共有やそれに参加するための体系的な仕組みづくりが不可欠である。

#### (5) 松戸市民向けSDGsフォーラムの開催

SDGsを松戸市民に広く知ってもらうために松戸市、市内の活動団体や企業の取組みを紹介するSDGsフォーラムを開催した。日時は2022年2月23日(水・祝)13時～16時30分、まつど市

民活動サポートセンターで対面とオンラインのハイフレックス形式で実施した。参加者は、52名(対面30名、オンライン22名)であった。図8の通り、登壇者は松戸市(市政総合研究室、教育委員会指導課)、企業(千葉銀行)、活動団体(岩瀬自治会、銀座環境会議)、大学連携(代表発表千葉大学)、まつど地域活躍塾つなぐりの会であった(写真3)。なお、参加者の募集はチラシ



写真3 SDGsフォーラム開催の様子  
撮影:まつど地域活躍塾つなぐりの会

2000 枚を印刷して松戸市の市民センター等への施設や関係者に配布したこと、並びに SNS を通じて広報を行った。

アンケートの内容としては、多角的な方面からの SDGs への取組みを知ることができ有意義であったという内容が多かったが、アンケートの中で聞いた本研究に関わる SDGs の理解度を高めて行動へつなげていくための内容として抽出した意見集約は下記の通りである。

●今後、SDGs についてどのようなことについて知りたい、もしくは学んでみたいと思うか

- ・SDGs ゲームの体験
- ・行政の方針・政策と民間の連携
- ・松戸市の行政に興味を持っているため、市の取組みについてもっと詳しく学びたい
- ・松戸市における経済発展と環境保全の両立を図るための取組みに必要なこと
- ・松戸市内の地元企業の SDGs に関する取組み事例、松戸市民の SDGs に対する意識調査・結果
- ・身近にできる SDGs やそのつながりが SDGs の目標達成にどのように貢献しているのか
- ・現在参加している団体で何ができるのか考えたい
- ・SDGs 活動をサポートできる仕組みづくり
- ・身近な大学生たちがどういった活動を実施しているのかについて詳しく知りたい
- ・いずれかの団体に所属しなくとも（個人レベルで）実施可能なことについて具体的に知りたい
- ・仲間づくりの必要性

●松戸市の市民社会の中で SDGs を促進していくためには、どのような方法で広がっていくと思うか

- ・連携を増やし、SNS、ラジオ、ポスターやチラシなどを置いて住民の関心を高める
- ・地域課題と SDGs の関連を具体的に示していくことが大切

- ・学校教育や子ども教育の強化、民間企業や行政、大学との連携による取組み
- ・体験型のワークショップの実施（スタディツアー）
- ・コワーキングスペースを活用したコミュニティ形成やワークショップの開催
- ・プロジェクトの創出によるモデル形成
- ・お祭り、市民コミュニケーションの重要性
- ・一人一人の意識次第
- ・自治会を通して、各家庭でできることを具体的に伝える
- ・様々な団体がつながっていくことが大切
- ・松戸市の農家、農地や里山といった自然資源を活かした取組み

参加者からは多様な意見がだされたが、松戸市の市民社会において SDGs 行動を促していくためには、松戸市民の SDGs に対するニーズを把握した上で、SDGs を広げていくためのネットワークや仕組みづくり、ポスター、チラシ、SNS での広報や情報の発信、松戸市という地域性を活かした具体的な取組みや教育機関での SDGs 学習の促進等が挙げられた。松戸という特徴を把握した上で松戸市民の SDGs に対する考え方の把握、様々な関係者との連携・協働や広報力の強化、並びに教育機関での SDGs 学習の推進が重要であることが分かった。各ステークホルダーや個々の多様な関心・活動を SDGs とつなげ総合的に捉えてどのように取り組むことができるのが今後の課題である。

#### 4. 結論

本調査研究は、今回の松戸市における SDGs の普及啓発活動から、市民社会の中で SDGs をより身近なものとするためにどのようなことが SDGs を浸透・定着させるために阻害要因となり、市民社会の中で SDGs の理解度を高めていくためにはどのような視点が必要であるのか、また、市民社会の中で SDGs と私たちの暮らしとの関わりについて理解を一層促進して SDGs 行動へ

つなげていくための展望を検討することを目的として実施した(図9)。SDGsが市民社会の中で浸透・定着していかない阻害要因としては、下記のように整理できる。

- ①市民がSDGsを進めていく場合、分野横断的で複眼的な視点を持って進めていくことの難しさが、SDGsに対する理解度が進まないことや、その結果として市民社会のSDGsに対する意識の高まりにつながっていない。
- ②特に、今回の調査研究では、目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に関する市民社会での理解度は十分でないと推測される。
- ③SDGsを意識した実際の行動変容へつなげていくための継続的な学びの場が少ない。
- ④SDGsを意識した現場体験学習の場づくりが十分に確保できていない。
- ⑤地域でSDGsを普及啓発するための仕組み・組織づくりや人材育成が不足している。

- ⑥松戸市の特徴を打ち出した地域版のSDGs教材がない。
- ⑦SDGsの広報・情報発信が不足している。
- ⑧若い人たちの巻き込みやその連携が十分でない。
- ⑨市民社会の中でSDGs目標を具体化してそのつながりを意識した取組みができていない。

松戸市におけるSDGsの普及啓発をより一層促進させるために、様々なステークホルダーとの連携・協働による新たな地域社会の価値や創造を図る必要がある。その方向性は、次の通りである。

- ①松戸市、企業、教育機関、NPO/市民団体とのネットワークの拡大を一層図る。
- ②より活発な分野横断的なコミュニケーションの場を創出する。
- ③松戸らしさを活かしたSDGsの取組みを打ち出す。

上記の①～③を具体化するため、市民社会の中でまっとう地域活躍塾つなぐりの会が市民団体の一

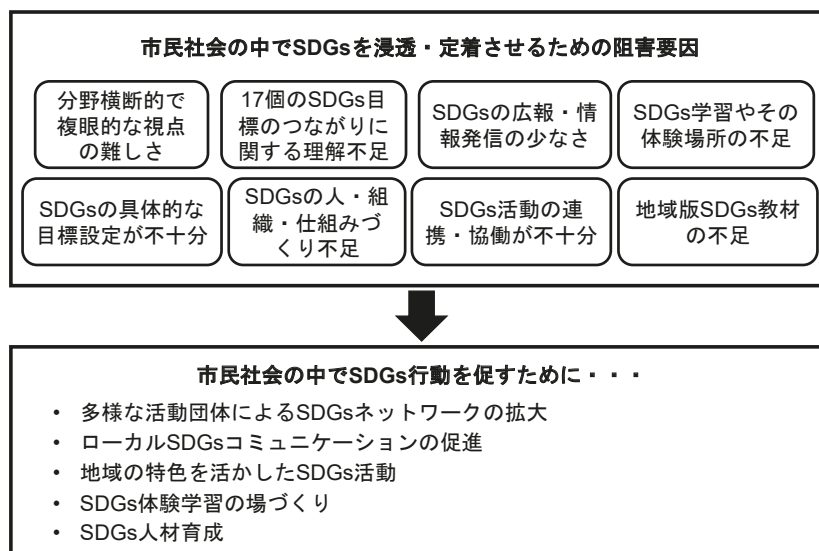


図9 SDGs普及啓発の阻害要因とSDGs行動へつなげていくための視点

出所:筆者作成

つとして SDGs をより分かりやすく解きほぐしていくための活動内容について下記の通り提示する。

- ① SDGs ネットワークの拡大：様々な活動をしている団体・組織とのつながりを強化していくためのネットワークの拡大を図る。
- ② 松戸版 SDGs 教材の開発：SDGs の普及啓発には、一般の市民が共感を持ってわかりやすく楽しい教材を作成し、地域社会で継続的に活用する。
- ③ 地域社会における SDGs の普及啓発活動：市民への認知向上を進めるには、地域の自治会、団体、組織等での学習会や勉強会等を通じて、SDGs コミュニケーションの機会を拡大する。
- ④ 松戸市の SDGs に取り組んでいる現場を知る：現場のスタディツアー等を組み込んだ講座を開催する。
- ⑤ SDGs 写真コンテスト・展示会：SDGs につながる活動や行動を写真に収め、イベントを通じて地域社会での SDGs の促進を図る。

今後は、市民社会の中でローカル SDGs コミュニケーションを促進するための多様なネットワークの形成、それを活用して相互の相乗効果を高めるための SDGs 体験学習の場を創出していくことが必要である。また、上記の活動を展開する上で、松戸市地方創生 SDGs 推進本部の取組み状況も注視し、高校や大学等の教育機関とも連携・協働しながら、松戸市における SDGs の活動をより具現化していくことが求められる。

#### 謝辞

本論文の執筆に当っては、まつど地域活躍塾つながりの会のメンバー、SDGs ネットワーク団体や関係者の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

#### 《注》

- (1) 本調査は、「SDGs の浸透状況を把握するとともに、企業および個人としての活動への生活者の意識や行動を計測して今後の SDGs の活動促進に役立つ情報を提供すること」を目的として実施された。調査期間は、2022年6月1日(水)～6月2日(木)、日本全国の男女18～69歳の2500人を対象とし、インターネット形式により行われた(クロスマーケティング、2022)。
- (2) オーガニックシティの概要については、下記ウェブサイトを参照のこと。  
千葉県木更津市オーガニック推進課  
<https://www.city.kisarazu.lg.jp/shisei/soshiki/kakuka/1006576.html> (2023年2月12日閲覧)
- (3) 木更津市とのオンラインスタディツアー議事録より作成。
- (4) これに加えて、まつど地域活躍塾つながりの会と SDGs ネットワーク団体のメンバーも参加した。

#### 参考文献

- 岩間叶実, 片桐正敏, 川邊淳子 (2021) 「教員養成系大学生の SDGs に対する認知度および意識調査」北海道教育大学紀要 教育科学編, 72 (1), 377-385
- 外務省「第5回ジャパン SDGs アワード受賞団体」  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award5\\_00\\_sougouban.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award5_00_sougouban.pdf) (2023年2月11日閲覧)
- 株式会社クロスマーケティング (2022) 「SDGs に関する調査 (2022年6月) 認知・興味関心編」  
<https://www.cross-m.co.jp/report/other/20220616SDGs/#> (2023年2月11日閲覧)
- Jeffrey D. Sachs, Guillaume Lafortune, Christian Kroll, Grayson Fuller, and Finn Woelm (2022), "Sustainable Development Report 2022-From Crisis to Sustainable Development: the SDGs as Roadmap to 2030 and Beyond Includes the SDG Index and Dashboards-", Cambridge University Press
- <chrome-extension://efaidnbmninnibpcapcglclefindmkaj/https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopmentreport/2022/2022-sustainable-development-report.pdf> (2023年2月11日閲覧)